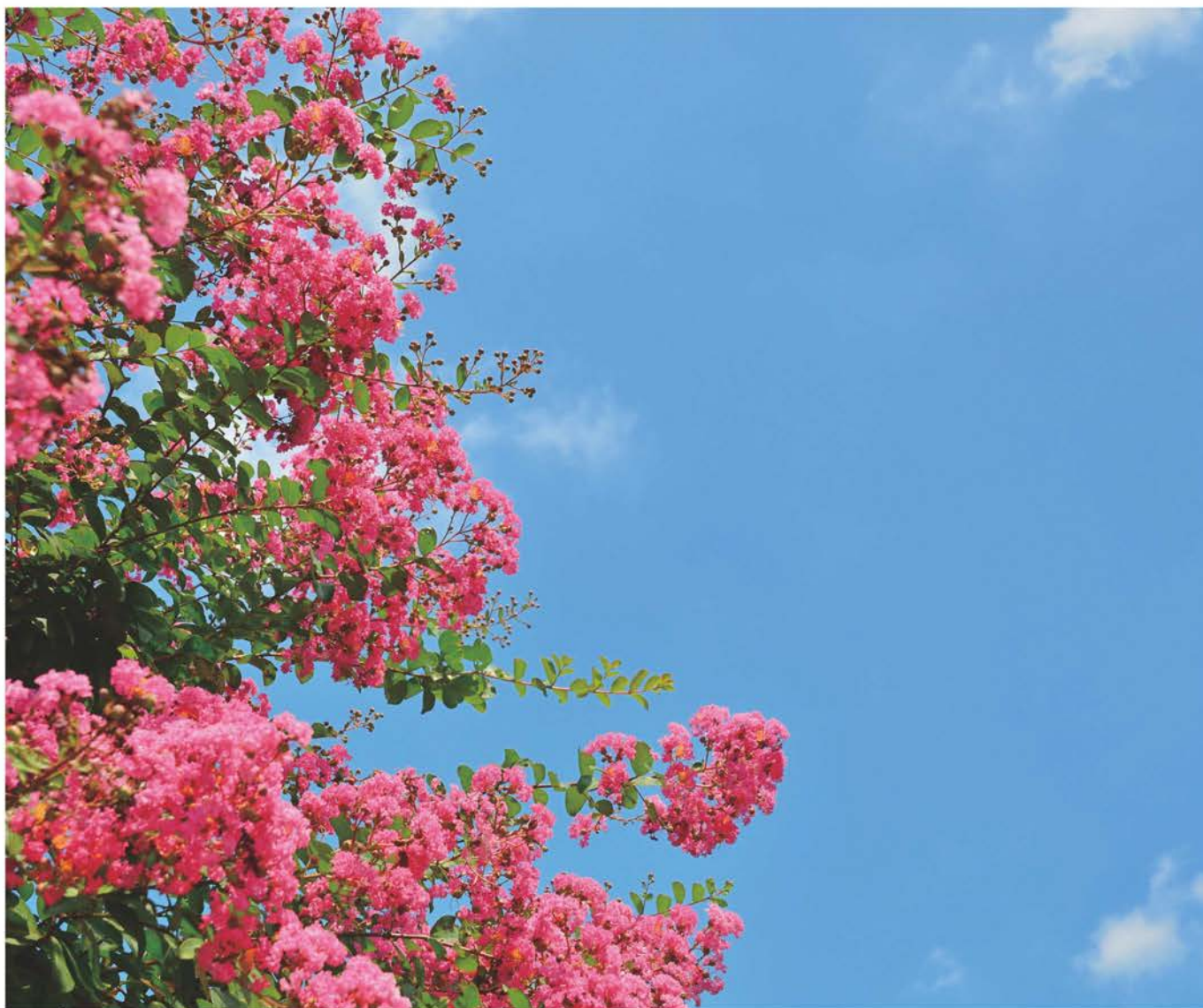


あおぞら

第67号



医療理念

1. 医療の原点に立った心温まる医療
【Humanism】
2. 高度医療の提供
【High Level】
3. 職員一同連携し仕事を通じての
人間的成長 【High Growth】

目次

「糖尿病・内分泌センター」の開設について	2～3
呼吸器内科診療におけるリハビリテーション科診療・ 嚥下診療の重要性	4～5
部署紹介（外来）	6
ナースウエアが新しくなります！	7
NEW FACE	7
外来週間診療予定表	8

特定医療法人

「糖尿病・内分泌センター」の 開設(2023年9月1日)について



副院長
糖尿病センター長
赤澤 昭一

現在まで「糖尿病センター」として糖尿病を中心として診療して参りました。和泉先生（当病院の外来で甲状腺・肥満外来の診療を担当）が当センターに加わって頂く事になり、2023年9月1日から「糖尿病・内分泌センター」として、診療枠を拡大し、より多くの患者さんの治療が行える様にいたします。

「**内分泌**」は余り馴染みが無い言葉ですので少し説明させていただきますと、人間の体は間脳一下垂体、甲状腺、副腎、性腺などの内分泌器官があり、種々のホルモンを分泌し、体のいろいろな機能の調節を行っています。このホルモンはごく微量で働きますが、多いか、少ないかにより、種々の疾患が生じます。①間脳一下垂体の障害では低身長症、先端肥大症などの疾患 ②甲状腺ではバセドー病、甲状腺機能低下症、慢性甲状腺炎など ③副甲状腺では高カルシウム血症、骨粗しょう症など ④膵臓では糖尿病 ⑤副腎では高血圧、肥満や低血圧が生じます。内分泌疾患の多くは、欠乏の場合はホルモンの補充を行い、過剰の場合はホルモンを抑制する事により、劇的な治療効果を発揮します。**和泉先生**は済生会病院院長を長年務められ、ご存じの方も多いと思いますが、第24回西日本肥満研究会会長も歴任され、内分泌専門医でもあり、とくに甲状腺疾患の一人者でございます。和泉先生が加わって頂く事により、肥満を始めとする内分泌疾患の治療も充実するものと期待、確信しております。



ここで、**最近の糖尿病治療薬の進歩**についても述べさせていただきます。糖尿病も膵臓から分泌されるインスリンというホルモンの不足状態から高血糖を生じる病気であり、内分泌疾患の一つでもあります。現在、我が国では糖尿病は年々増加し、1,150万人、糖尿病が強く疑われる人も含めると、2,000万人に達すると言われております。高血糖状態が長く続くと、眼、神経、腎臓に合併症を起こします。糖尿病性腎症は血液透析の原因疾患の第一位、糖尿病性網膜症は失明原因の第2位を占め、糖尿病性神経障害は足切断の原因の一つとなっています。糖尿病の治療目的は血糖コントロールを良くし、合併症を無くし、糖尿病でない人と同様の生活を送れる様にすることにあります。

最近の糖尿病薬の治療の進歩はめざましく、DPP4阻害剤、SGLT2阻害剤やGLP-1受容体作動薬など糖尿病の治療薬が続々と登場して参りました。DPP4阻害剤、GLP-1受容体作動薬は（腸

管から分泌される) インクレチンというホルモンの分解を抑えたり、受容体を刺激したりして、その作用を増大させたものです。長崎県は肥満人口日本一ですが、インクレチンの一つ、GLP1受容体作動薬は食欲を抑え、体重を減少させる効果を有します。また、SGLT2 阻害剤は腎臓の尿細管からの糖の再吸収を抑制する事により、尿に糖を排出し、血糖を下げる薬です。体から糖が出てゆくために、代わりに脂肪の分解を促進し、体重を減少させ、また、糖とともに余分な水分を体から排出するため、血圧も低下させ、心臓の負担を取り、心不全や動脈硬化を抑制する作用も有しています。さらに、腎臓の糸球体の血行動態を改善し、尿細管から(糖の再吸収という)エネルギーの節約し、腎臓の負担を軽減するため、慢性腎臓病の進展を抑制する作用を有します。この様に**糖尿病治療薬は血糖を低下させるだけでなく、糖尿病の合併症も抑制する作用**も有しています。この様な事も視野に入れ、薬を選択し、治療を行う時代となっております。また、SGLT2 阻害剤、GLP-1 受容体作動薬などの糖尿病治療薬が血糖低下作用のみならず、体重減少作用、過剰水分排泄作用などの優れた効果を併せ持ちますので、**糖尿病を持たない患者さんの慢性心不全や慢性腎臓病**にも保険拡大され、同様に GLP-1 受容体作動薬も(糖尿病を持たない)肥満の患者さんの治療薬として保険拡大される予定です。私達も糖尿病治療薬を最大限活用し、肥満も含めた治療にあたってまいりつものであります。



最期に現在**当センターで行っている糖尿病診療**について紹介させていただきます。糖尿病センターは月曜から金曜まで毎日、二人体制で診療にあたっております。この医師の診療を支え、診療に欠かせないのが、**栄養士、看護師**の役割です。どの様な糖尿病新薬が出て、糖尿病治療の根本は食事療法(バランス食)で、糖尿病センター専任の若杉礼子主任および栄養科の管理栄養士により食事指導を

行っています。また、看護師によるインスリン注射の新規導入やインスリン注射が正しく行われているかどうかをチェックするインスリン注射指導も外来で定期的に行っています。糖尿病患者は神経障害や末梢動脈の循環不全により、足に病変が生じやすく、水虫やタコ、ウオノメなどの病変が生じやすく、放置すると足切断に至る場合もあり、日常的な足の管理、フットケアが重要となります。当センターでは外来で、(月から金曜まで毎日)足病変もチェックし、予防的フットケアを行い、重症化を防いでおります。



最近では糖尿病患者さんの高齢化に伴い、内服忘れや注射忘れにより、血糖コントロールが悪化し、その背景に**認知症が発症**していたという患者さんも増え始めました。福田康恵認知症看護認定看護師を中心に、チームを組んで介入し、可能な限り、患者さんに寄り添い、サポートし、家庭でも安心して糖尿病治療を行っていただける様にしています。



糖尿病診療は現在、**川原仁美先生、世羅康徳先生と赤澤昭一**の3名で行っています。新たに**和泉元衛先生**も加って頂き、4人体制で糖尿病・内分泌センターの診療を行ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

呼吸器内科診療における リハビリテーション科診療・ 嚥下診療の重要性



リハビリテーション科部長 兼
呼吸器内科部長

河野 仁寿

日本は高齢化率が2019年に28.4%に達する超高齢化社会である。長崎県の高齢化率は全国を上回り、2020年には33.0%と30%を超え2040年には39.6%に達する見込みとなっている。また、日本では2021年の死因別死亡数では肺炎は73,190人(5位)、誤嚥性肺炎は49,489人(6位)であり、その合計では122,679人と4位の脳血管疾患死亡数104,588人を上回り、日本人の死因別死亡数として常に上位を占めている。肺炎の多くは高齢者に発症し、高齢者肺炎では誤嚥性肺炎が多く、嚥下障害に関連して発症することがほとんどである。また、誤嚥性肺炎患者は非誤嚥性の肺炎患者より予後が不良であるとされている。しかしながら、誤嚥性肺炎の明確な診断基準は存在せず、肺炎と誤嚥性肺炎の診断区別が曖昧であり、肺炎と診断された中に誤嚥性肺炎が多く混在している可能性が考えられる。

高齢者肺炎の治療は微生物検査結果に基づいた抗菌化学療法を基本とするが、嚥下障害の評価と食形態、摂食条件および環境の調整、口腔ケア、呼吸器・摂食嚥下リハビリテーションが重要である。当院ではこれまで肺炎治療は言うに及ばず積極的な嚥下評価すなわち嚥下造影・内視鏡検査をもと



にした嚥下管理により肺炎患者の予後向上に努めてきた。当院での嚥下診療は2012年に私がはじめて当院に赴任して以降、診療体制を整え着実に症例を積み重ねてきた。そのうえで、高齢者肺炎、すなわち誤嚥性肺炎において適切な嚥下診療・積極的な嚥下評価のもとで適切な食形態、摂食条件と呼吸器・摂食嚥下リハビリテーションを実施し、多職種連携によるチーム医療を実践し、患者、家族、介護職員への指導により、多くの患者が肺炎を繰り返さなくなった。

その後、私は2020年4月から2023年3月まで、日本の嚥下診療の第一人者である藤島一郎先生に師事すべく、静岡県浜松市にある、浜松市リハビリテーション病院および聖隷浜松病院で嚥下診療とともにリハビリテーション科診療の研鑽を積み、嚥下診療の習熟とともにリハビリテーション科専門医を取得した。その間、多くの嚥下診療やリハビリテーション診療において高

名な先生方とも交流することができ、私の臨床診療にさらなる奥深さを与えたと感じている。その中で知ったことだが、日本において呼吸器科内医で嚥下診療を積極的に実施しているのは私を含め数名しかいないということだ。

もともと嚥下障害は脳卒中疾患や神経筋疾患、耳鼻咽喉科疾患の領域で発展し、最近ではサルコペニアが嚥下障害のトピックとなっている。呼吸器疾患における嚥下障害はサルコペニアに起因するところが大きく、それに嚥下呼吸同調不全が加わる。そして、最も重症な嚥下障害は呼吸器内科に誤嚥性肺炎の診断という形で集まってくるのだが、その主治医である呼吸器科内医は嚥下障害を理解しておらず嚥下障害の診断ができないというのが現実であり、日本において誤嚥性肺炎は終末期であるとの誤った認識が広まってしまった。非常に憂慮すべき状況だが、この誤った認識は早急に正さなければならない。そのため、今後は呼吸器内科医で嚥下診療ができる医師を着実に増やしていくことが課題であると考えている。

2023年4月から再び、当院で診療を再開することとなり、これまでの呼吸器診療、嚥下診療をさらにグレードアップ・バージョンアップし、リハビリテーション診療を加え、患者の疾患治療にとどまらず、その後の機能回復、障害克服とその先の社会復帰・社会参加まで見据えた包括的な診療を、この長崎の地で実践・継続していきたいと考えている。



浜松市リハビリテーション病院 医師・療法士



嚥下内視鏡 指導風景



藤島一郎先生とリハビリテーション科医一同

外来紹介

外来は1階フロアから北2階糖尿病センターまでの広いエリアを担っています。

診療から検査、治療までの多岐にわたる業務を他部門のスタッフと連携をとりながら対応しています。



当院は救急告示病院で2022年度は646台の救急車搬入がありました。救急室担当は外来ですが、HCUスタッフと協働しながら迅速かつ安全に救急患者の対応を行います。



外来のあちこちには受診された患者さんやご家族の癒しになるよう写真や飾り物を掲示しています。

季節に応じて変えていますので、来院された際はぜひご覧ください。



外来ギャラリー



院内デイケア作品



外科外来診察室前

2023年度の外来目標は「患者満足に繋がる看護提供を行う」としました。

待ち時間など問題点に対し業務改善を行いながら、患者さん、ご家族が安心して外来受診できる環境を整えていきたいと考えています。来院された際はお気軽にお声かけください。

ナースウェアが新しくなります!

8月1日より看護師のユニフォームが変わります。

特定医療法人
光晴会病院 看護部

ベージュとパープルの
2色の上着と
ネイビーのパンツへ



シューズは紺か白



- ①氏名 ②診療科 ③出身地
④趣味/特技 ⑤自己PR

医師



- ①宮崎 佑也(みやざき ゆうや)
②泌尿器科
③長崎
④寝る、マンガ、食事
⑤泌尿器科としてまだまだ未熟者ですが、精一杯頑張りますので、どうぞ
よろしくお願いします。

外来週間診療予定表

2023年7月1日～

	月	火	水	木	金	土
内科	ふくだ やすひろ 福田 康弘 (消化器)	むらた ともや 村田 朋哉 (消化器)	ふくだ やすひろ 福田 康弘 (消化器)	みやざき けんいち 宮崎 健一 (腎臓)	しばた ゆういち 柴田 雄一 (一般)	
	みやざき けんいち 宮崎 健一 (腎臓)	なりた しょうへい 成田 翔平 (消化器)	しばた ゆういち 柴田 雄一 (一般)	むらた ともや 村田 朋哉 (消化器)	こうの よしひさ 河野 仁寿 (呼吸器)	
	いずみ もともり 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)	いしい たくま 石井 拓馬 (腎・一般)	こうの よしひさ 河野 仁寿 (呼吸器)	なりた しょうへい 成田 翔平 (消化器)	いふく こうへい 伊福 康平 (腎・一般)	
	(非常勤) みちつし とおる 道辻 徹 (一般)	なかじ りん 中路 倫 (呼吸器)	たいら ひろし 平 鴻 (腎・一般)	なかじ りん 中路 倫 (呼吸器)	いずみ もともり 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)	
循環器内科	こうの まさき 河野 政紀	いしざき まさひこ 石崎 正彦	くまもと たく 熊本 拓	こうの まさき 河野 政紀	いしざき まさひこ 石崎 正彦	
心臓血管外科		さとう ひさし 佐藤 久		こが ゆういち 古賀 佑一		
泌尿器科	みやざき ゆうや 宮崎 佑也	やまさき やすと 山崎 安人	みやざき ゆうや 宮崎 佑也	大学医	やまさき やすと 山崎 安人	
外科	おかだ かずや 岡田 和也	おかだ かずや 岡田 和也	いとう しんいちろう 伊藤 信一郎	すずい せいや 進 誠也	すずい せいや 進 誠也	
	すずい せいや 進 誠也	おがわ しんいちろう 小川 伸一郎	きしかわ ひろき 岸川 博紀	きしかわ ひろき 岸川 博紀	いとう しんいちろう 伊藤 信一郎	(非常勤) もりうち ゆき 森内 由季 (形成外科)
糖尿病センター 9:00 ～ 12:00	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	
	かわはら ひろみ 川原 仁美	せら やすのり 世羅 康徳	せら やすのり 世羅 康徳	せら やすのり 世羅 康徳 フットケア	せら やすのり 世羅 康徳	
【午後】 14:00 ～ 16:00		おおつぼ としお 大坪 俊夫 (腎臓病疾患専門)	みやざき けんいち 宮崎 健一 (腎臓病疾患専門)	(非常勤) しみず としまさ 清水 俊匡 (リウマチ専門)		
【午後】 13:30 ～	すずい せいや 進 誠也	おかだ かずや 岡田 和也 第1・3週(便秘) 第2・4週(便失禁)		すずい せいや 進 誠也	すずい せいや 進 誠也	
【午後】 心臓血管外科 13:00 ～ 15:00				13:00～16:00 さとう ひさし 佐藤 久		
		さとう ひさし 佐藤 久		こが ゆういち 古賀 佑一		

※ 診療科目：内科・外科・泌尿器科・循環器内科・心臓血管外科・消化器科・リウマチ科・リハビリテーション科・呼吸器科・腎臓内科・形成外科・肛門外科・糖尿病内科・麻酔科

※ 診療受付時間：午前8:30より 午前11:30まで **予約制ですので、できるだけ予約をお願い致します。**

光晴会病院 地域医療連携室 TEL 095-857-3563 (直通) FAX 0120-573-632 (直通)

(コミュニケーションマガジン) 編集委員

編集・発行責任者：岡田 和也

編集スタッフ：一瀬(南4階) 喜多(南5階) 楠本(医事課)

山口(クラーク課) 岩永(地域医療連携室)

吉野(臨床検査科) 金子(顧問)

特定医療法人 **光晴会病院**

〒852-8053 長崎市葉山1丁目3番12号

TEL095-857-3533 FAX095-857-2572

http://www.kouseikai.org/